

営業グループ事業説明会

三菱商事株式会社



石油・化学グループ



石油・化学グループ 出席者

グループCEO

グループCEOオフィス室長

グループ管理部長

石油本部長

石油化学本部長

基礎化学本部長

萩原 剛

竹内 修身

鳥居 真吾

羽場 広樹

鈴木 明文

佐々木 栄輔

本日のアジェンダ

1. グループ概要

- グループミッション
- 全社事業ポートフォリオにおける位置付け
- 主要商品・組織概要・主要事業投資先

2. グループ方針

- グループ基本方針
- 分野別取組方針
- 注力分野における事業構想
 - ✓ 次世代サービスステーション(SS)事業(三菱商事エネルギー)
 - ✓ プラスチックの循環型ビジネス
 - ✓ CO₂フリーアンモニア事業
- 利益計画・投資計画

本日のアジェンダ

1. グループ概要

- グループミッション
- 全社事業ポートフォリオにおける位置付け
- 主要商品・組織概要・主要事業投資先

2. グループ方針

- グループ基本方針
- 分野別取組方針
- 注力分野における事業構想
 - ✓ 次世代サービスステーション(SS)事業(三菱商事エネルギー)
 - ✓ プラスチックの循環型ビジネス
 - ✓ CO₂フリーアンモニア事業
- 利益計画・投資計画

1. グループ概要：グループミッション

低炭素社会への移行や環境対応の重要性が高まる中、

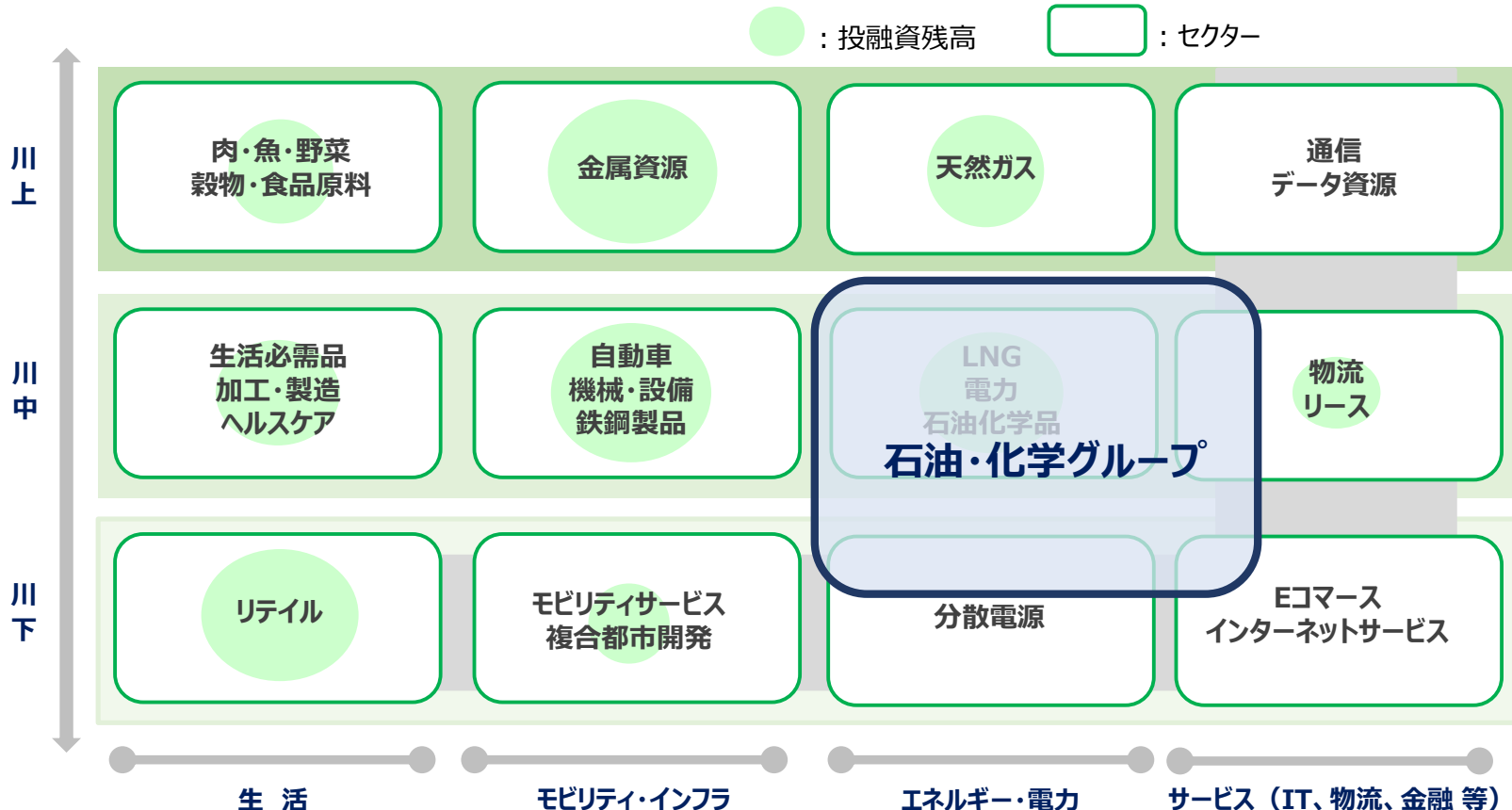
石油・化学業界に与える影響を踏まえ、

当社の強みや機能を発揮し得る事業への**選択と集中**を進めることで、

業界の課題解決に貢献する

1. グループ概要：全社事業ポートフォリオにおける位置付け

石油・化学グループは、「エネルギー・電力」の「川中」セクターにおける事業展開に加え、「川下・サービス領域」での取組を強化している。



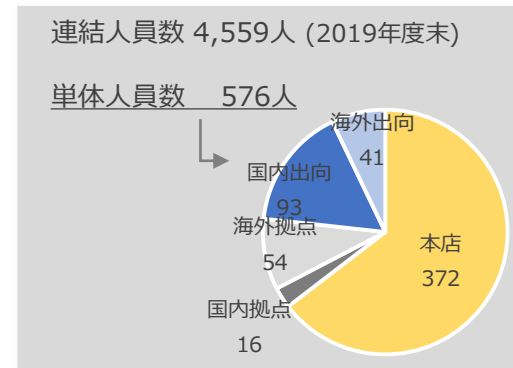
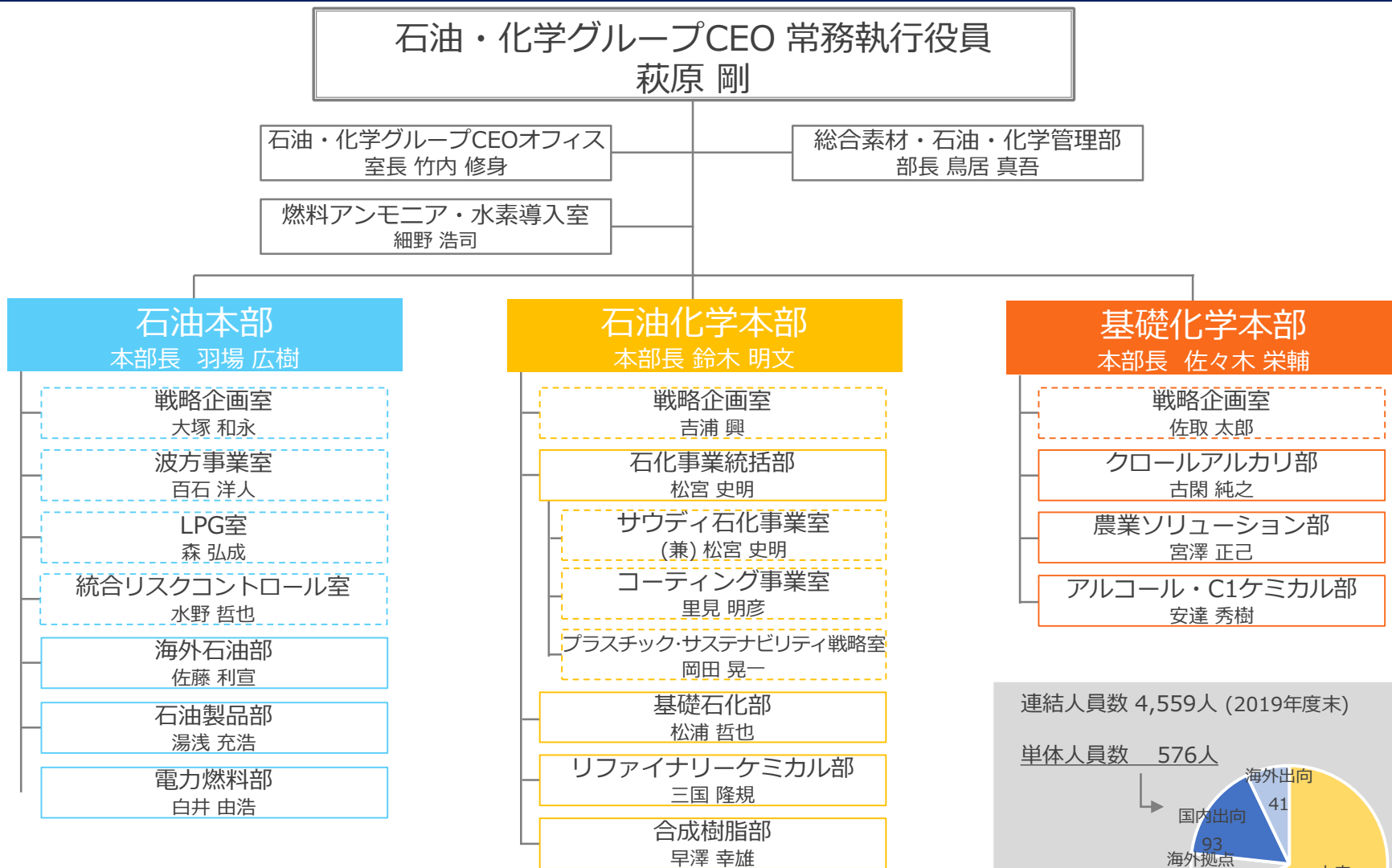
基盤事業(※)では、市場の変化や将来のプロフィットプールを見据えた立ち位置のシフトを行い、収益力を強化。加えて、川中を中心に取り組む事業の川下・サービス領域への展開を推進し、新規事業の構築・強化を図る。

(※) 現在、一定の収益基盤があり、維持・拡大が期待できる事業

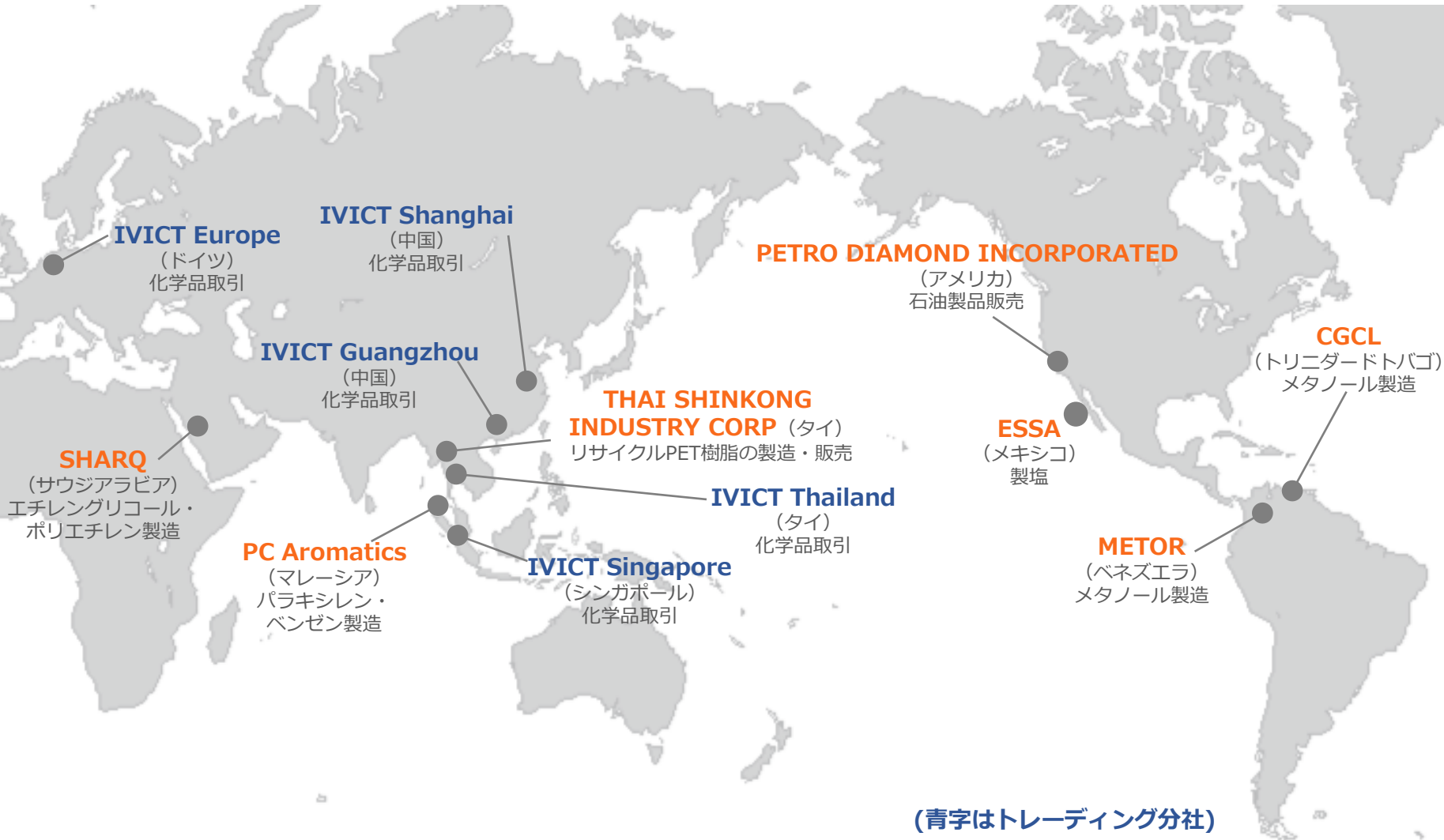
1. グループ概要：主要商品



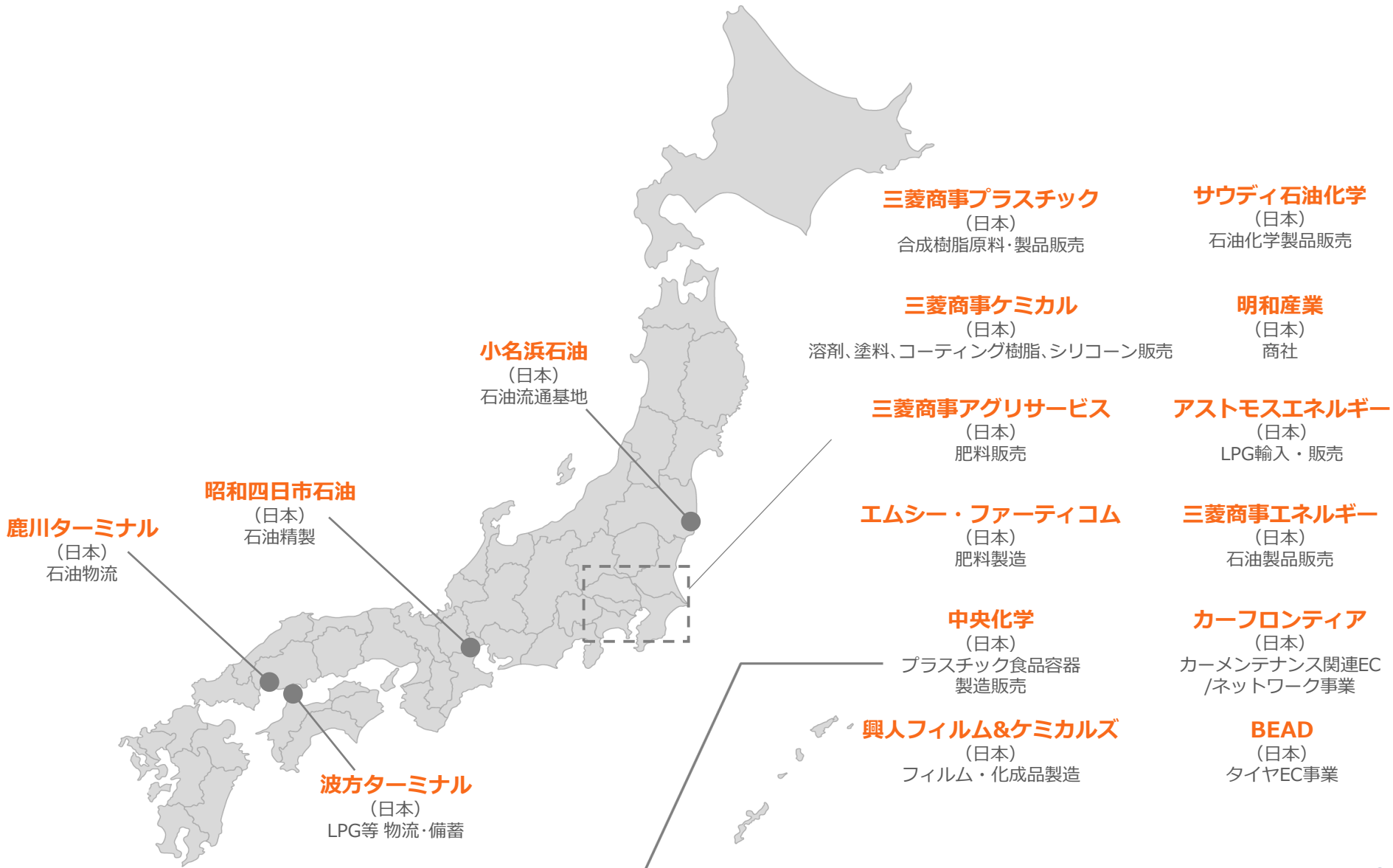
1. グループ概要：組織概要



1. グループ概要：主要事業投資先(海外)



1. グループ概要：主要事業投資先（国内）



1. グループ概要：主要事業投資先(1/2)



三菱商事エネルギー

所在地：日本

設立年：2015年

株主構成：三菱商事 100%

事業内容：各種石油製品取引/サービスステーション建設・運営

石油製品卸売並びに直売事業を主軸事業とし、子会社のカーフロンティア社ではモビリティ関連のネットワーク・eコマース事業に取り組んでおります。



アストモスエネルギー

所在地：日本

設立年：2006年

株主構成：三菱商事 49% 出光興産 51%

事業内容：LPG輸入

LPG取扱量は専業会社としては世界最大級で、国内需要の約25%を担っています。



SHARQ (サウディ石油化学)

社名：Eastern Petrochemical Company “SHARQ”

所在地：サウジアラビア

設立年：1981年

SHARQ株主構成：サウディ石油化学 50% SABIC 50%

サウディ石油化学株主構成：三菱商事 33.34%

事業内容：エチレングリコール、ポリエチレン製造

生産能力：エチレングリコール150万トン、ポリエチレン160万トン

三度の増設を経て世界有数の規模を誇る石油化学メーカーに成長し、その製品は全世界に向けて販売されています。

1. グループ概要：主要事業投資先(2/2)



中央化学

所在地：日本

設立年：1961年

株主構成：三菱商事 60.59%

事業内容：プラスチック食品包装容器製造

技術開発に重きを置き、ライフスタイルの多様化に対応した、様々な素材、製品を開発しています。



ESSA

社名：Exportadora de Sal S.A. de C.V.

所在地：メキシコ

設立年：1979年

株主構成：三菱商事 49% メキシコ政府 51%

事業内容：塩田事業

生産能力：700万トン

海水を蒸発させる天日製塩という環境に優しい製造方法を用いて生産、日本が輸入する塩の約半分を賄っています。



CGCL

社名：Caribbean Gas Chemical Limited

所在地：トリニダードトバゴ

設立年：2013年

商業生産開始：2020年10月(予定)

株主構成：三菱商事 26.25%

事業内容：メタノール、ジメチルエーテル製造

生産能力：メタノール100万トン、ジメチルエーテル2万トン

豊富な埋蔵量を誇る同国の天然ガスを原料としています。

本日のアジェンダ

1. グループ概要

- グループミッション
- 全社事業ポートフォリオにおける位置付け
- 主要商品・組織概要・主要事業投資先

2. グループ方針

- グループ基本方針
- 分野別取組方針
- 注力分野における事業構想
 - ✓ 次世代サービスステーション(SS)事業(三菱商事エネルギー)
 - ✓ プラスチックの循環型ビジネス
 - ✓ CO₂フリーアンモニア事業
- 利益計画・投資計画

2. グループ方針：グループ基本方針

【DXによる価値創造】【川下・サービス領域での事業強化】に、
業界課題である【低炭素・循環型事業モデルへの転換】
【次世代エネルギーへの対応】を加えた4つをグループ最優先テーマに設定。

資産入替等による基盤事業の強化、新規事業の創出を実行し、
グループ収益の量・質的向上を図る。

対面業界の課題解決

立ち位置のシフト

低炭素・循環型

次世代エネルギー

DX

川下・サービス領域

当グループの成長に向けた中長期テーマ

2. グループ方針：分野別取組方針

分野	主要な取組方針	主要基盤事業	新規事業
① 石油	石油精製～サービスステーション(SS)事業にて市場のニーズを捉えた新業態へのシフトを主導	昭和四日市石油 三菱商事エネルギー 関連トレーディング 等	対面業界・市場で想定される潮流を的確に捉え、当社の強み・機能を発揮し得る新規事業を構想・実現する
② リファイナリー ケミカル	リファイナリーのケミカルシフトを捉えた環境対応型事業への転換	PC Aroma 関連トレーディング 等	<p style="text-align: center;">中心テーマ</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">低炭素・循環型</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">次世代エネルギー</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">DX</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">川下・サービス領域</div> </div> <p style="text-align: center;">具体的構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代サービスステーション (ネットワーク・eコマース事業) ・ LPGリテイル ・ 循環型プラスチック ・ CO₂フリーアンモニア ・ EV関連素材
③ エチレン と誘導体	SHARQ事業の強化に向けた打ち手の実行と共に「成長の芽」、「成長の柱」の創出	SPDC 関連トレーディング 等	
④ アルコール・ C1ケミカル	CO2フリーアンモニア事業による低炭素社会の実現	METOR, CGCL 関連トレーディング 等	
⑤ クロール アルカリ	電力多消費の解決を通じた業界の構造転換を主導。塩事業においては川下展開を目指す	ESSA 関連トレーディング 等	
⑥ モビリティ ・EV関連	低炭素・循環型に繋がるEVにおけるLiB関連事業の「成長の芽」「成長の柱」発掘	明和産業 等	

2. グループ方針：注力分野における事業構想（1/3）

◆ 次世代サービスステーション事業

川下・サービス領域

DX

■ 取組方針

石油精製からサービスステーション(SS)までのバリューチェーンにおいてリアルSS拠点を活用し、相乗効果を生むネットワーク・eコマース事業の拡大により、収益力向上に取り組む。

《環境変化・課題》

- CASEの進展、人口減少等によるガソリン需要減退
- 油種の需給バランス差(ガソリン↓、灯・軽油→)
- SSの販売減

主要テーマ

拠点価値の再強化

打ち手

燃料事業強化

非燃料事業強化

資産入替・拠点活用

ネットワーク・eコマース事業

■ 事業構想概要

ネットワーク・eコマース事業(三菱商事エネルギー/カーフロンティア)

燃料事業の強化及び、SS拠点活用によるネットワーク・eコマース事業の創出を目的として、CF事業を'16年度に立上げ。ネットワーク事業の業界プラットフォーム化に注力し、収益化を図る。



サービス事業の発展・実行

ネットワーク事業(PITLOCK/timy) PITLOCK timy

車両所有者とカーメンテナンス拠点となるSS・整備工場等を繋ぐネットワーク事業。カーメンテナンス業界のデジタル化を推進

構想中

タイヤEC事業(TIREHOOD) TIREHOOD

SS拠点等を活用したタイヤEC事業。オートバックス・セブン社と共同事業を展開し、事業価値向上を目指す

実行段階

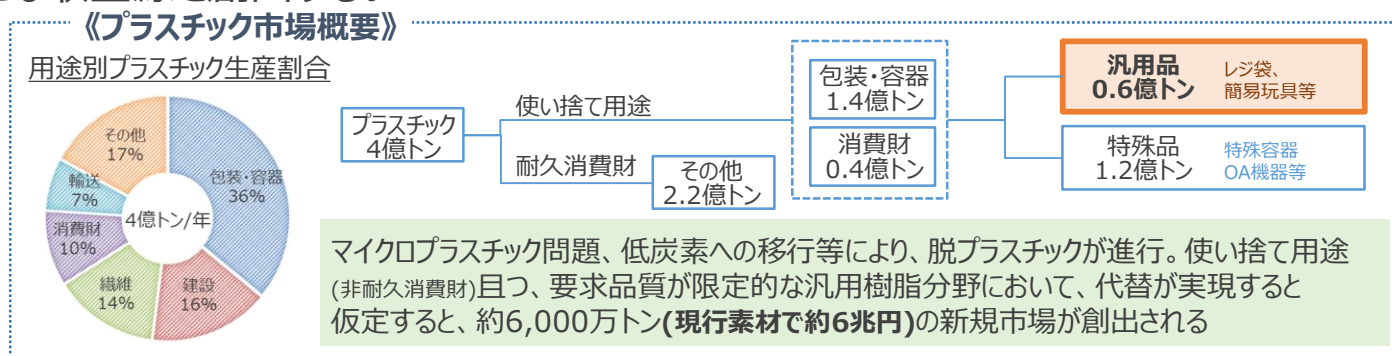
2. グループ方針：注力分野における事業構想（2/3）

◆ プラスチック循環型ビジネス

低炭素・循環型

■ 取組方針

環境意識の高まりを機会と捉え、プラスチック市場において低炭素・循環型事業モデルを構築し、新たな収益源を創出する。



■ 事業構想概要

プラスチックリサイクル技術や代替素材事業等の新たな市場でプラスチック新規事業を創出すると共にプラスチックのユーザーであるブランドオーナーとの密な連携を通じて、有力素材の開発・事業化を図る

タイ PET樹脂製造事業

タイ新光に増資、ケミカルリサイクル技術によるPET樹脂製造事業へ参画。足下の業界課題に対応する

実行段階

紙素材事業

製紙工場の端材を有効利用した紙素材事業へ参画。用途拡大を目指す

実行段階

バイオ由来プラスチック事業

非化石燃料由来100%化を実現する同事業を検討。紙混合素材事業への展開も図る

構想中

生分解性プラスチック事業

海洋プラ問題の解決に繋がる同事業においては、有望技術を見極め、参画等を検討する

検証中

2. グループ方針：注力分野における事業構想（3/3）

次世代エネルギー

◆ CO2フリーアンモニア事業

■ 取組方針

気候変動問題への対応が重要課題となる中、次世代エネルギーとして有力視されるCO2フリーアンモニア（水素）の導入、社会実装の一翼を担い、「成長の芽」の創出を目指す。

《発電分野におけるCO2フリーアンモニア導入のインパクト》

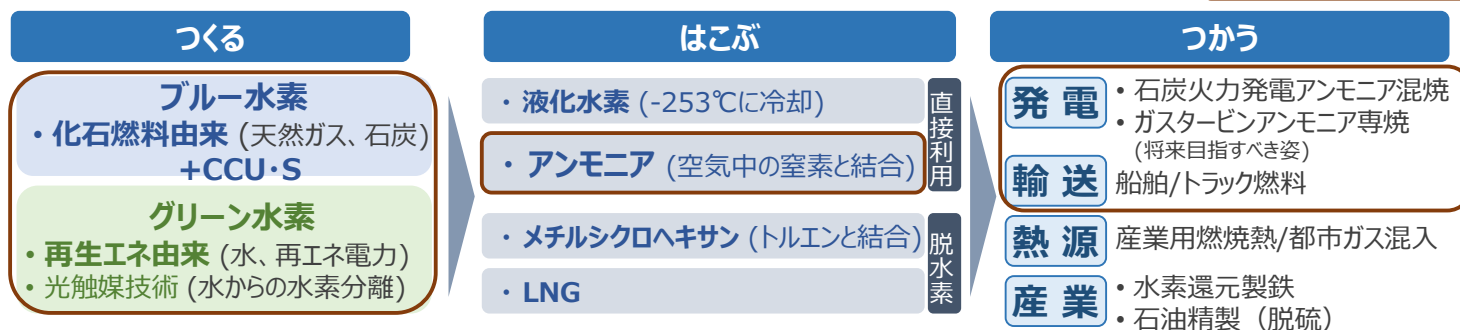
ケース	本邦の全石炭火力発電所が20%混焼	本邦の全石炭火力発電所が専焼に転換
CO ₂ 排出削減量	約4,000万ト	約2億ト
アンモニア需要量	約2,000万ト	約8,000万ト(2.5兆円規模)

(参考) 世界のアンモニア需要量は2億トであり、内海上輸送量は1,800万ト程度

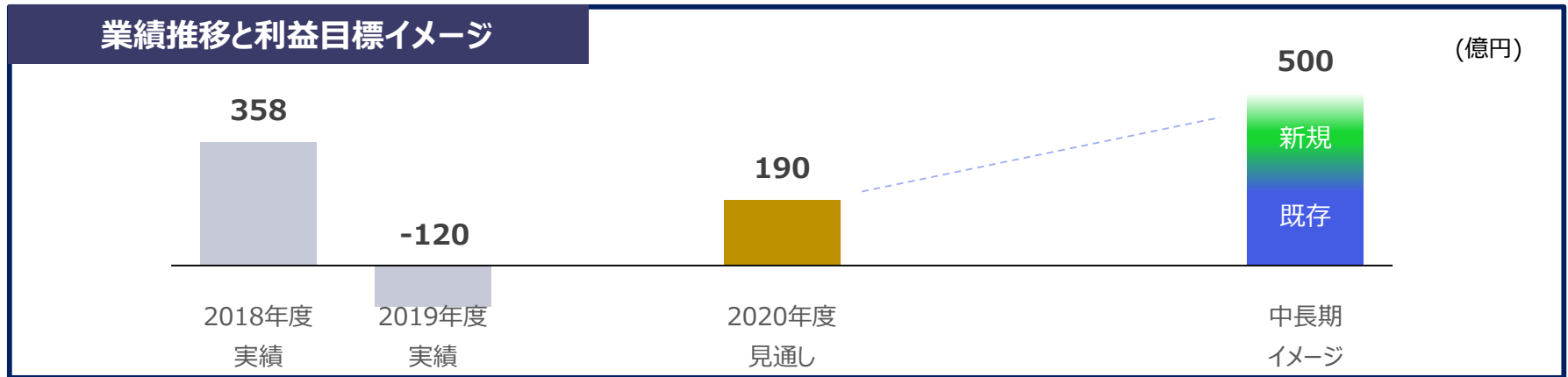
■ 事業構想概要

CO2フリーアンモニアのバリューチェーンにおいて、『水素キャリア製造・輸送』『発電分野等での利用』に関する事業性をパートナーと共同で検証する。

《水素・CO2フリーアンモニアのバリューチェーンの全体像》



2. グループ方針：利益計画・投資計画



- 投資計画イメージ**
- 本中経期間(2019-2021年度)中に400-500億円の資産入替を実行
 - 本年度中、注力分野に100億円規模の投資について実行決定済
 - コロナ禍の影響も踏まえつつ、グループ基本方針に沿った新規投資を実行

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報、及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。本資料 利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。